

論壇

世界主要国に漂う不安

景気の先行きに不安感が漂っている。日本だけでなく、米国や中国を含んだ世界の主要国全てに当てはまる。最近まで、日本は史上最長と言われる景気拡大を実現してきた。景気拡大と言われてもピンとこない人も多いかもしれないが、国内の生産や所得の規模を表すGDP（国内総生産）や有効求人倍率などの雇用統計を見ると、確かに長期間の経済の拡大が続いてきた。海外でも、10年以上前の世界的な金融危機のリーマン・ショックからの回復で、昨年の中頃までは多くの国で景気拡大が顕著であった。

伊藤 元重 学習院大教授(国際経済学)

それが昨年後半から、少し雲行きが怪しくなってきた。景気拡大が長すぎて、株価や不動産価格に過熱感があり、そろそろ調整が始まるという見方が広がっている。トランプ政権が仕掛けた米中貿易摩擦で、中国经济が大きな影響を受け始めているという見方もある。

しを反映する動きを示す。特にここからの景気の悪化が見込まれるときには長期金利が低い水準となる。足元の短期金利よりも長期の金利が低くなっているということからは、今というより、これから経済が停滞していくという懸念を市場が表明しているということだ。

堅調状態続く日本経済

いずれにしても、内外の景気の先行きに警戒的な見方が広がっている。そうした中でいま市場関係者の間で注目されているのが、長期金利と短期金利の逆転現象である。一般の読者には分かりにくいかもしれないが、長期金利は経済の先行きを予想する上で重要な指標だ。長期金利とは10年物の国

日本では、日銀がマイナス金利政策をとっているのに、長短金利の逆転現象が起きているわけではない。ただ、長期金利が低下傾向を続けており、すでに長期金利がマイナスになるという事態が続いている。欧州でも主要国の長期金利が非常に低い状態が続いている。

長期金利は、将来の経済の見通

「景気は気から」と言われる。多くの人が経済状況が悪いと思

長期金利が示す景気の先行き

*この記事は静岡新聞社編集局調査部の許諾を得て転載しています。無断転載、複製を禁じます。